



Weekly Report

Engage Rotary Change Lives

ロータリーを实践しみんな豊かな人生を

2013-2014 年度 R.I.会長

ロン D.バートン

名古屋アイリスロータリークラブ
 例会日 毎週水曜日 13:00-14:00
 例会場 ANA クラウンプラザホテル
 グランコート名古屋
 創立 2013年6月5日
 会長 八神 基 幹事 荒山 久美

第 16 回例会 2013 年 10 月 9 日 水曜日 雨

斉唱 「我等の生業」

出席者報告

例会	第16回	第15回	第14回修正
会員数	33名	33名	33名
出席	27名	24名	28名
欠席	6名	9名	5名
Make Up	-	-	1名
出席率	81.82%	72.73%	87.88%

ゲスト紹介

名古屋千種 RC 鈴木聖三様

米山奨学生 (学友) ラース・ウリネンペー様

名古屋北 RC 浦野三男特別代表

名古屋北 RC 田嶋好博 PDG

名古屋北 RC 水野吉紹名誉会員

ニコボックス報告

水野吉紹名誉会員 お世話になります。

八神会長 鈴木様、本日はお越しいただき、卓話を頂戴しありがとうございます。

会長挨拶

事業団体の周年記念旅行で台湾は新竹と台北へ行ってきました。新竹は台湾が電子産業を育て上げた基盤整備＝サイエンスパークの地です。国を挙げての産業政策の優れた点は自由化の名の下で日本が失った点です。台北へは科学機器の展示会への訪問でした。規模は東京の展示会の1/10、名古屋の展示会と同程度。歓迎食事で先方の役員の3名程の胸にロータリーバッジがありました。

台湾はロータリー活動の盛んな地で、日本よりも人口比では多くのロータリアンを誇ります。台北市内も約100社とか。社とは扶輪社＝ロータリークラブの漢字表現です。1クラブ当たり30～50名規模のクラブが多いようです。中には例会を日本語で行っているクラブもあります。日本語クラブは台湾にしかありません。2クラブあり、共に米山学友会会員と駐在日本人とで立ち上げたクラブです。1つは台北東海扶輪社、もう1つは2年前にできた台北南山扶輪社です。日本語が通用しますから、台湾へ行かれた折には是非訪問なさってください。きっと歓迎されることでしょう。

幹事報告

10/16 休会です。

10/23 チャーターナイトのリハーサルを実施します。卓話は寺尾会員です。

10/30 チャーターナイト当日、会員は16:30に集合(役員、理事は16:00集合)。

本日の卓話

第 2760 地区米山奨学委員会

(名古屋千種 RC)

鈴木 聖三 様

昨年の「米山月間に寄せて」の中で、伊藤敦夫米山奨学委員長から、本来ロータリー米山奨学会とは、「1ヶ月に1箱のタバコ代を節約して奨学金に」という合言葉から始まり、今や全国88,000人のロータリアンからの支援を浄財として、奨学金を支給する民間最大の奨学財団になっている旨の挨拶がありました。

その目的は、相互理解と国際親善を深める為に優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献し、

世界を結ぶ「掛け橋」として経済的援助をするのみではなく、ロータリーの豊かな人的資源を活かし、精神面でも支えながら、母国を離れても日本での心豊かな生活を送れるよう、心のケアにも配慮されています。毎年約 700 名（学部生 10 万円/月、大学院生 14 万円/月）の奨学生を支援して、事業費は毎年約 12 億円、これまでに支援した奨学生は累計で 17,700 名（2013 年 6 月現在）です。

これを支えてきたのは、ロータリアンの皆様の寄付であります。この寄付金には普通寄付金と特別寄付金があります。2012 年度全国平均で普通寄付金は 4,667 円、特別寄付金は 10,379 円です。因みに名古屋アイリスクラブは普通が 5,000 円、特別は 10,000 円でした。現状を申しあげましたが、何卒宜しくご高配の程お願い申し上げます。この寄付金がないと、米山奨学金制度はやっていけません。

2012~2013 年度の寄付金収入は 13 億 2500 万円、そのうち普通寄付金が 4 億 1100 万円、特別寄付金が 9 億 1400 万円でした。一方、奨学金・事業費に要した費用は 13 億 5900 万円で 3400 万円の不足となりました。この不足分は特別積立財産を取崩して補い、本年度は奨学生を 800 人から 700 人に縮減することになりました。

いずれにしましても昨今のような国際情勢下、当事業の重要性は益々大きなものになっています。親愛なる皆様のご協力を切に願うものであります。

卓話テーマ：エコビレッジについて

米山奨学生（学友） ラース・ウリネンペーさん



近年、持続可能性という言葉をよく聞きます。限りある資源を大切に使い、環境にやさしい方法で物を作ることによって、長期的にも地球環境を保護するということが唱えられています。私は今年の春、持続可能

性に関心を持つようになり、時間のある時にその勉強をしています。大学卒業後には、本格的に持続可能な社会作りに貢献したいと考えています。

私が今年の夏に訪問したスヴァーンホルムというデンマークのエコビレッジについて話をさせていただきます。エコビレッジとは、環境になるべく負担をかけない生活を送ろうとする人々が集まった村や共同体のことです。私は 9 月にこの村を訪問し、約 1 時間半のツアーに参加し、村を見せていただきました。

スヴァーンホルムの人口は約 140 人で、年齢は様々で家族もいれば独身もいます。設立は 1978 年で、35 年間も継続しています。村の面積は 450 h（名古屋市中区の半分）で、そこには村人の家々以外に森、牧場、畑などがあります。村内では出来る限りの自給自足を目指しています。風力発電所もあり、電力は村内でまかなっているそうです。食料に関しては肉類が 10 割、野菜類の 7 割を自分達で作っています。果物や嗜好品などは、外部から購入しているため、完全な自給自足ではないのですが、それに近い状態と言えるでしょう。

村外で働いている人は、収入の 8 割を運営資金として共同体に支払います。この資金を建物や農業の管理費や、村内で働いている人たちの給料などにあてています。村内の人は食事を作る仕事、牧畜や畑の仕事、建築、修繕等の仕事に従事しています。月給は 7 万円程度ですので、村外で働いている人同様、個人で使えるお金は少ないです。但し、家賃、食費、電気代はかからないし、結婚式や誕生日のパーティーの費用やその他雑費も運営資金から出ますので、生活に困ることはありません。自分のお金は生活費というより、自分の趣味などにあてる小遣いと言った方が正確かもしれません。村には共同の台所と食堂があり、夕食はなるべく皆でそこで食べるようにしています。この食堂はスヴァーンホルムの心臓部と呼ばれ、ここで共同体の人々が交流し、人間関係を深めるのです。この村にはもう一つ心臓部があり、それは会議室です。定期的に会議を開き、共同体の管理、新しいプロジェクト等、共同体に関わることについて議論し、決定をします。この村では直接民主制が実施されており、共同体の管理について何かを決める際には、代表者等を介さず、共同体全員が関わっているのです。会議に参加した全員の合意が必要で、反対意見がある場合、ただ単に反対ではなく新たな提案を求められます。そして、全員合

意に至るまで、お互いに提案を出し合います。

スヴァーンホルムには様々な施設や事業があります。食料品店、カフェ、野菜包装工場、幼稚園、出版社、養蜂場、ジムなどです。その他には、絵画のコースや村内ツアーを提供しています。

環境になるべく負担をかけない為に、公共交通機関や自転車を使うようにしています。車を使う場合でも、共同体全体で共有している車や、ハイブリット車などの使用をしているそうです。

自給自足やエコとは、不便そうであるとか、大変そうであるとかいうイメージを一般的には持ちますが、私はこのツアーを見る限りではそういった印象は受けませんでした。電気機器などに伴う現代生活の快適さは失われていませんし、労働時間は1日8時間、或いはそれより短く、平均より長くはありません。村内での生活は自然とともに生きているという大きな利点があります。そのゆったりとした時間の流れの中にいると、私は現代社会のストレスから解放される気持ちになりました。また、村内の人々は仕事と生活が密接に繋がっていると感じました。仕事そのまま生活に反映されているというか、仕事の結果が日常生活に見えるというか、そのように繋がっていると感じました。畑で作った野菜は自分達の食卓に上がるし、自分達で建てた建物は目の前に存在しています。身の回りの物が全部外部から来たのではなく、自分達の手で作ったものが多いのです。またそれらを作った過程も共同体の人々はよく理解しています。建物に関してもそうですが、どういった方法で野菜を作っているのか、動物をどう扱っているのか等が、村内にいれば自然に見えてきます。私にとってこれらの点が非常に魅力的でした。近年、様々な事業や社会活動等の「見える化」が唱えられていますが、スヴァーンホルムでは見える化をしなくてもそれが自然な状態なのです。共同体の外とも関ることも大切ですが、仕事でも同じ共同体の人々と関ることによって、人間関係がより深くなると思います。

この共同体での生活を更に発展させれば、もっとエコに生きることが出来るのではないかと思います。ある共同体に100人住んでいるとします。例えば、共同体内で共有するテニスラケットが10本あれば、100人中100人が自分のラケットを持っていなくても、数としては十分足りることでしょう。つまり歯ブラシや

洋服などプライベートなもの以外はひとりひとり、或いは各々の家族が所有していなくても、共有可能です。結果、必要数量が劇的に減少します。このような形でも共有の仕方には少なくとも3つの利点があると思われます。一つ目はひとりひとりにとって安くあがります。自分で1本のラケットを買うかわりに10分の1の代金で済むこととなります。二つ目に、自分の持ち物が少なくなりますので、クローゼット内をすっきりさせることが出来ます。三つ目にはこれが最も重要なのですが環境への負担が減ります。消費が減れば生産量も減りますので、資源を大切にすることが出来ますし、大量生産に伴う環境破壊の影響を少なくすることが出来ます。ラケットは一例にすぎず、テレビやパソコン、書籍など色々なものに応用出来ると思います。

最後になりましたが、これから我々の生きている社会が持続可能なものになっていくことを願っております。



これからの例会予定

【第17回例会】

10月23日 水曜日 13:00~14:00

ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋
チャーターナイトのリハーサルあります。

【第18回例会・チャーターナイト】

10月30日 水曜日 18:00~20:00

ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋

理事・役員は16:00集合／会員は16:30集合です。
出席者数は約140名を予定しております。お出迎え時
とご退席時は混雑が予想されますので、10/23例会時
に各自担当の再確認をお願いします。